

260318  
第2回新しい美浜の学校教育検討委員会

## 小中一貫教育の展開とその成果および課題

兵庫教育大学大学院  
安藤 福光(あんどうよしみつ)

### 1-1.小中一貫教育の導入理由

#### □ 数ある導入理由(安藤2009、p.192より抜粋)

- (1) 確かな学力の向上
- (2) 豊かな人間性の育成
- (3) 中学校へのスムーズな進学
- (4) 発達上の問題の解決
- (5) 生徒指導上の諸問題
- (6) 少子化による生活・学習集団の再構築

\* 青字:教育課程上の理由

緑字:生徒指導上の理由

橙字:教育課程・生徒指導上の理由

### 1-2.小中一貫教育が求められる背景

#### □ 「中1プロブレム」、「中1問題」、「中1ギャップ」

\* 論者によって異なるが、意味は以下を指す

・中学校1年次において、中学校のシステムにうまく適応できずに不登校等になること

\* 夏休み明けに多発するという=「一次適応」よりも「二次適応」(田中・安藤2009)

#### □ 以前と比較して、子どもの成長の早熟化(天笠2005)

\* 身長

・1950:男子6歳約110cm

・2004:男子6歳約120cm

\* 身長伸び

・1950:男子15歳、女子12歳

・2004:男子12歳から13歳、女子10歳から11歳

=早熟化(加速化)傾向

### 1-3.小学校と中学校の違い(1)

#### □ 教育課程・授業関係

\* 新しい教科との出会い

\* 教科名の変更

\* 行事名の変更(例:運動会から体育祭)

\* 教科担任制の開始、クラス担任2名

\* 教科の運営方法の変更(例:体育男女別)

\* 期末テストのアリ・ナシ、試験の回数の増加

\* テストの作り方

\* 45分授業から50分授業へ

\* クラブ活動から部活動へ

\* 教室移動が増える

\* 成績のつけ方(通知表の違い等)

#### □ 教育課程・授業関係おまけ

\* 夏休み中のラジオ体操のアリ・ナシ

\* 夏休み中のプールのアリ・ナシ

\* 鉛筆からシャープペンシルへ

\* 学習帳から大学ノートへ

\* お道具箱のアリ・ナシ

\* 算数セットのアリ・ナシ

\* 黒板の字の丁寧さ

\* 体操ズボンの丈の長さ

## 1-4. 小学校と中学校の違い(2)

### □ 生活・環境関係

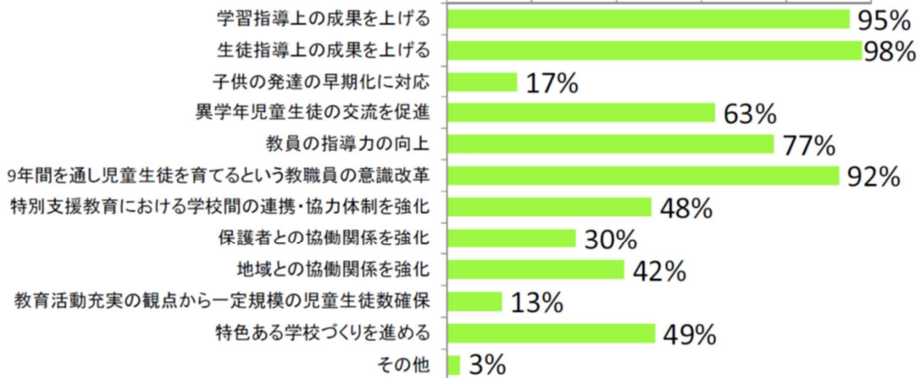
- \* 業間休みのアリ・ナシ
- \* 登校方法の変化(一斉から個人へ、徒歩から自転車へ)
- \* 2人1組の机から1人机へ
- \* 人間関係の厳格化(子ども同士、対教員)
- \* 風紀の厳格化
- \* 生徒手帳の登場
- \* 教員といる時間の長短
- \* 私服から制服へ
- \* 掃除の時間帯(昼・放課後)
- \* ランドセルのアリ・ナシ
- \* 家庭訪問のアリ・ナシ
- \* 購買のアリ・ナシ

## 2. 小中一貫教育制度の類型(文部科学省2016, p.20)

|                   | 義務教育学校  | 小中一貫型小学校・中学校  |                        |
|-------------------|---|---|------------------------|
|                   |   | 中学校併設型小学校<br>小学校併設型中学校  | 中学校連携型小学校<br>小学校連携型中学校 |
| 設置者               | —   | 同一の設置者  | 異なる設置者                 |
| 修業年限              | 9年<br>(前期課程6年+後期課程3年)                                     | 小学校6年、中学校3年   |                        |
| 組織・運営             | 一人の校長、一つの教職員組織  | それぞれの学校に校長、教職員組織<br>小学校と中学校における教育を一貫して実施するためにふさわしい運営の仕組みを整えることが条件<br>① 国庫補助金(特別にマージン)を申請する場合は、学校の経営調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する<br>② 学校運営協議会(併設型)・合同で実施し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する承認を明確にする<br>③ 一貫型やマージン型を可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含めた教職員を併任させる |                        |
| 免許                | 原則小学校・中学校の両免許状を併有<br>※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能 | 所属する学校の免許状を併有していること   |                        |
| 教育課程              |   | -9年間の教育目標の設定<br>-9年間の系統性・体系的に配慮がなされている教育課程の編成   |                        |
| 特別支援教育課程の<br>実施形態 |   | ○   | ○                      |
|                   |   | ○   | ×                      |
| 施設形態              | 施設一体型・施設併設型・施設分離型   |   |                        |
| 設置基準              | 前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用                              | 小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用  |                        |
| 標準規模              | 18学級以上27学級以下  | 小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下   |                        |
| 通学距離              | おおむね6km以内   | 小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内   |                        |
| 設置手続き             | 市町村の条例  | 市町村教育委員会の規則等  |                        |

## 4. 小中一貫教育に関する諸調査の結果

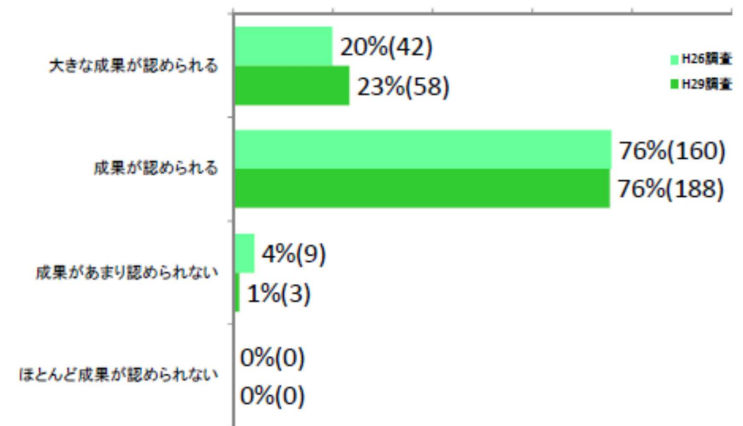
### 【小中一貫教育の主なねらい】



## 総合評価

### 小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価(成果)

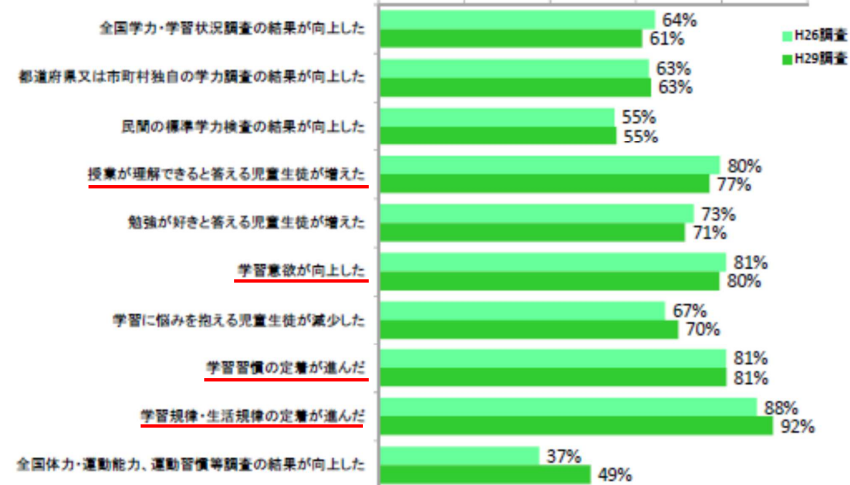
【公立】



成果1 【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



文部科学省(2017, p.32)

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

成果2 【公立】

生徒指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



文部科学省(2017, p.33)

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

成果3 【公立】

教職員の協働等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



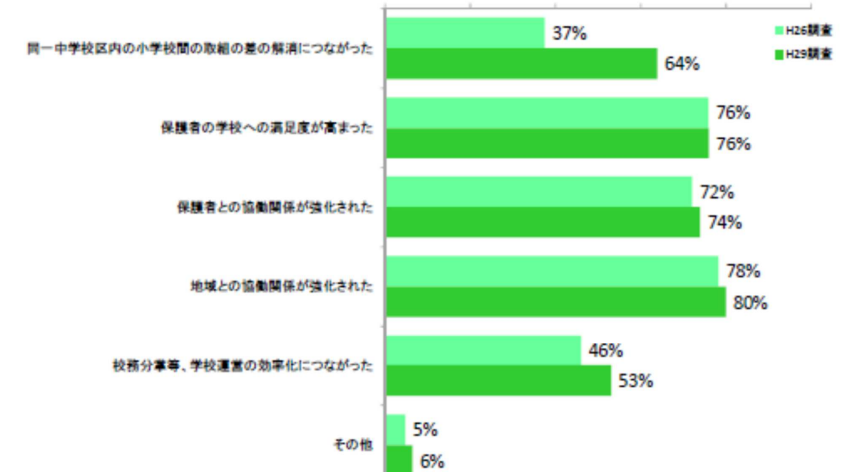
文部科学省(2017, p.34)

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

成果4 【公立】

その他、学校運営等

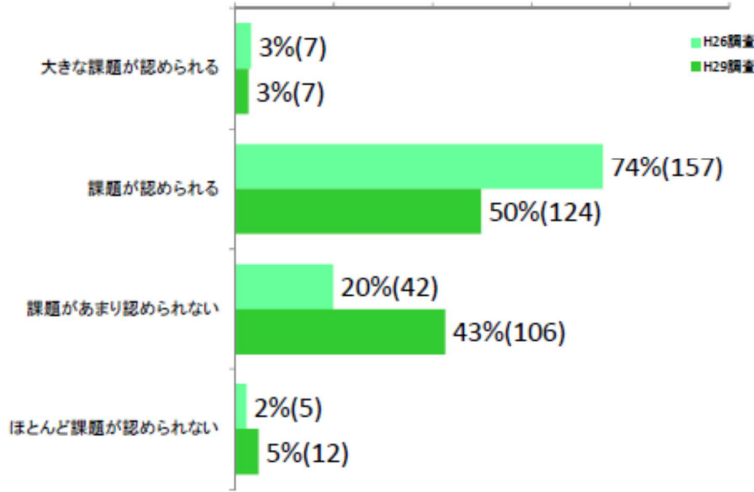
※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



文部科学省(2017, p.35)

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

課題1 【公立】



文部科学省(2017, p.37)

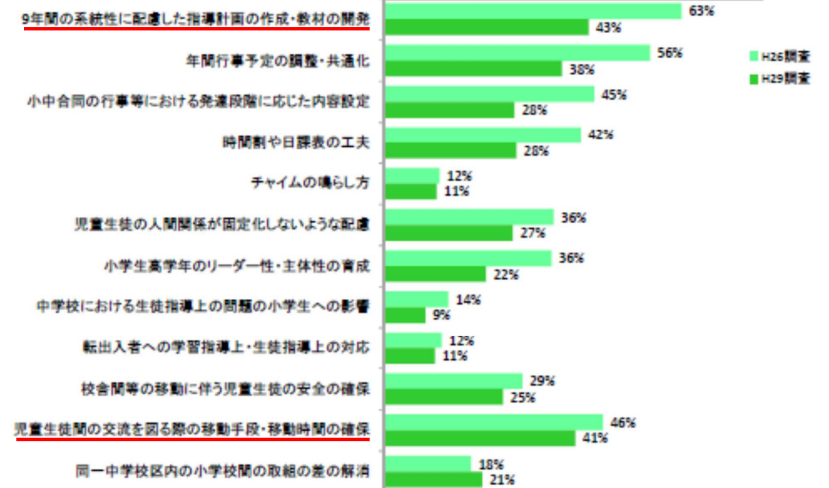
回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村) 36  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)



課題2 【公立】

学習指導、生徒指導等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



文部科学省(2017, p.37)

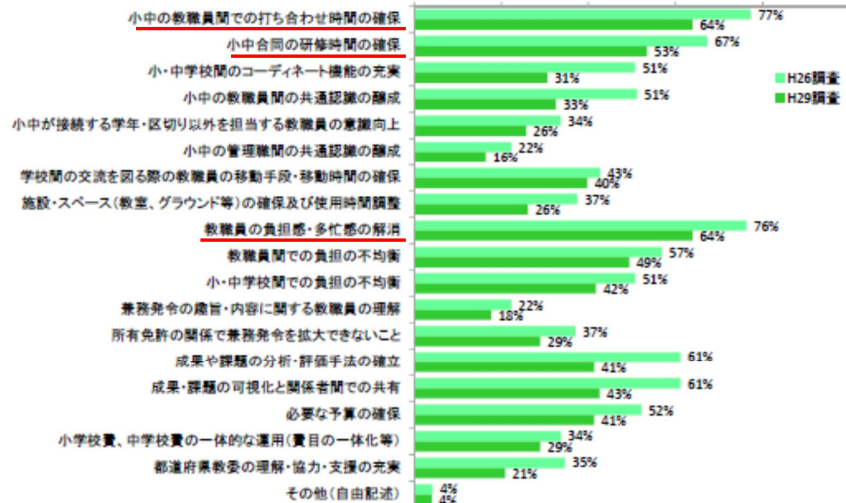
回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村) 37  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)



課題3 【公立】

教職員の負担等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合

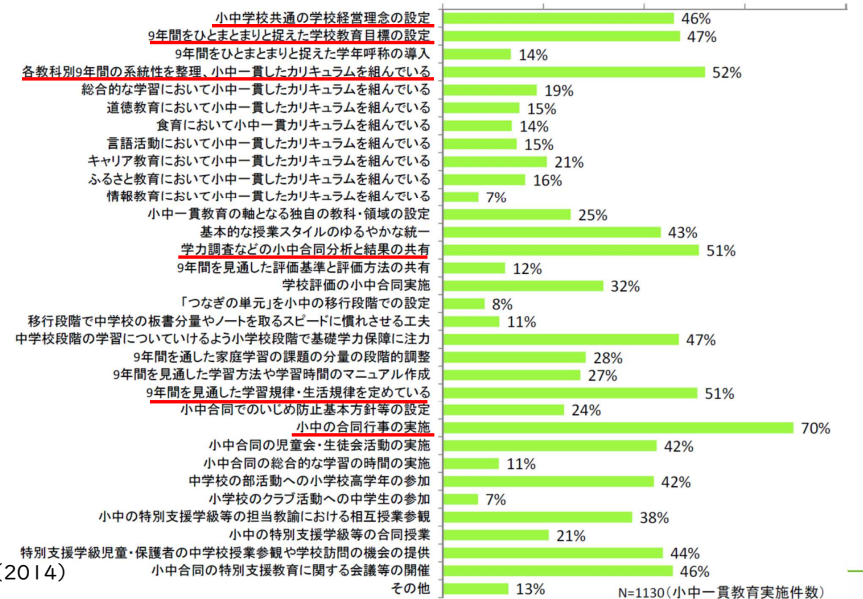


文部科学省(2017, p.38)

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村) 38  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)



系統性の確保



文部科学省(2014)




N=1130(小中一貫教育実施件数)

## 5-1. 調査結果にみる小中一貫教育の成果

### □ 成果


- \*カリキュラム上の成果:学力の定着傾向
- \*生徒指導の成果:学校不適応の改善傾向、異学年交流による児童生徒の成長
- \*運営上の成果:教職員の協働による指導力等の向上
- \*その他:保護者や地域の満足度の向上

 小中一貫教育=義務教育の質向上に益する取り組み

## 5-2. 調査結果にみる小中一貫教育の課題

### □ 課題

- \*カリキュラム上の課題:早修型のカリキュラムの是非  
例:新たな「ギャップ」の発生、「中1ギャップ」から「小5ギャップ」へ
- \*生徒指導上の課題:中学校進学が通過儀礼の意味を持たなくなった
- \*運営上の課題:教職員の協働体制をいかに構築するか(時間の確保、負担感など)

 いずれも小中一貫教育で「何をするのか」が問われる  
=カリキュラムがカギを握る


## 5-3. 小中一貫校の強みと可能性

### □ 子ども同士の育ち

- \*1年生から9年生が日常的に学校生活を共にする意味
- \*「見る一見られる関係」  
リーダーシップとフォロワーシップの日常的な獲得と再生産

### □ 教職員の協働

- \*子どもを長期的な視点(見通し)で見ることの意味
- \*小中の良さを生かした仕事の進め方が、教師の職能成長にもつながる

 義務教育の質の向上へ

## 文献

- 田中統治・安藤福光(2009)「小中一貫教育」、小川正人編集代表『検証 教育改革』教育出版、pp.86-104
- 天笠茂監修、五番町小学校・二河小学校・二河中学校(2005)『公立小中で創る一貫教育-4・3・2のカリキュラムが拓く新しい学び-』ぎょうせい
- 安藤福光(2009)「小中一貫教育のカリキュラム評価の視点」、田中統治・根津朋実編『カリキュラム評価入門』勁草書房、pp.191-212
- 中央教育審議会(2014)『子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について(答申)』
- 文部科学省(2014)『小中一貫教育等に関する実態調査の結果』
- 文部科学省(2016)『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』
- 文部科学省(2017)『小中一貫教育の導入状況調査の結果』